

PAZ内（泊村）住民に対する安定ヨウ素剤の事前配布

とまりむら

- ▶ 北海道及び泊村では、PAZ内住民を対象に住民説明会を開催。
- ▶ 令和元年7月の原子力災害対策指針改正後は、40歳未満の者、妊婦、授乳婦、配布時点で挙児希望のある女性、その他配布希望者に対して配布を実施。
- ▶ 令和2年11月1日現在、40歳未満の者267人に配布しており、今後も継続して説明会を開催し、転入者等への配布や薬剤の更新等を実施。



地区名	40歳未満の配布対象者	40歳未満の配布済者数
照岸地域	30	28
第三地域	47	33
第二地域	16	12
第一地域	5	5
臼別地域	52	33
茅沼地域	78	71
渋井地域	91	67
堀株地域	31	18
合計	350人	267人

＜安定ヨウ素剤事前配布説明会＞

北海道及び泊村により、安定ヨウ素剤の効能や服用時期など、事前配布に際し知っておくべき事項を説明。

※ 北海道及び泊村では、上記地域に居住する住民1,146人のうち、40歳未満の者、妊婦、授乳婦、配布時点で挙児希望のある女性、その他配布希望者893名に対して安定ヨウ素剤を配布済み。

PAZ内（共和町）住民に対する安定ヨウ素剤の緊急配布

きょうわちょう

- 共和町では、避難を行う際にバス集合場所にて安定ヨウ素剤を緊急配布することとしており、そのため、北海道とともにPAZ内住民を対象に安定ヨウ素剤の配布・服用に係る事前問診を行っている。
- 令和元年7月の原子力災害対策指針改正後は、40歳未満の者、妊婦、授乳婦、配布時点で挙児希望のある女性、その他配布希望者に対して事前問診を実施。
- 令和2年9月2日現在、40歳未満の者348人の事前問診を完了しており、今後も継続して説明会を開催し、事前問診を実施。



＜安定ヨウ素剤緊急配布（訓練風景）＞

共和町により、避難用バス乗車時に事前に実施した問診に基づき安定ヨウ素剤を配布。



安定ヨウ素剤の緊急配布場所（バス集合場所）	40歳未満の住民数	40歳未満の問診済住民数
宮丘地区寿の家	23人	4人
北辰小学校	2人	1人
ビシャムナイ会館	19人	17人
発足コミュニティセンター	43人	26人
はまなす幼児センター	98人	49人
発足克雪管理センター	36人	15人
北電体育館	244人	236人
合計	465人	348人

※ 北海道及び共和町では、上記地域に居住する住民1,103人のうち、40歳未満の者、妊婦、授乳婦、配布時点で挙児希望のある女性、その他配布希望者715名に対して安定ヨウ素剤の配布・服用に係る事前問診を済み。

避難住民等に対する安定ヨウ素剤の備蓄状況と緊急配布

- 避難住民等に対する安定ヨウ素剤の緊急配布に備え、北海道は計17箇所の施設に合計約714,000丸の丸剤と約2,000gの粉末剤及び乳幼児向けのゼリー状安定ヨウ素剤6,060包を備蓄。(令和2年4月1日現在)
- 緊急配布が必要となった場合には、備蓄場所より各町村が指定するバス集合場所(計108箇所)及び避難退域時検査場所(候補地計29箇所)に搬送の上、対象住民等に順次配布を実施。なお、避難退域時検査場所に近接する寿都町、蘭越町及びニセコ町については、発災時に北海道が指定する避難退域時検査場所で、対象住民等に順次配布を実施。



安定ヨウ素剤備蓄場所

北海道:17箇所

道及び町村職員により、安定ヨウ素剤の搬送を実施



安定ヨウ素剤の緊急配布を実施

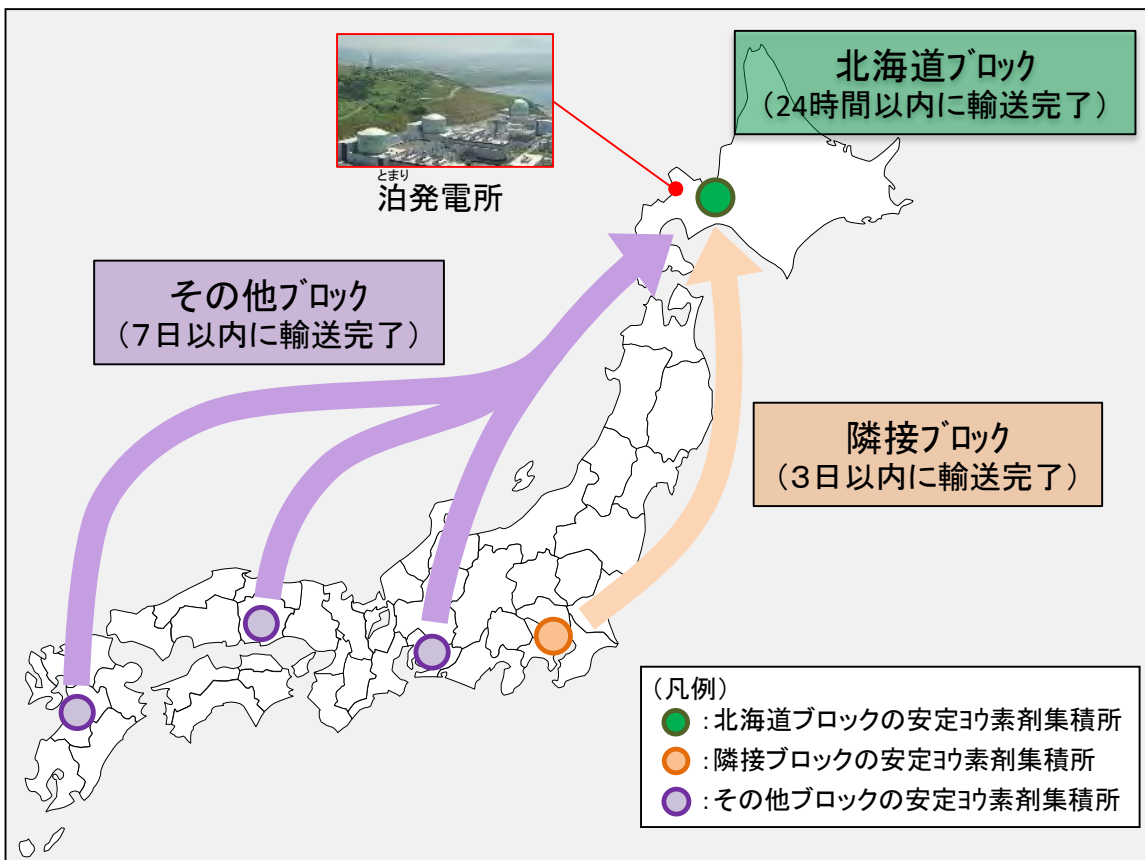
- 各町村が指定するバス集合場所で緊急配布※1
(計108箇所)
- | | |
|---|--|
| とまりむら 泊村: 2箇所
きょうわちよう 共和町: 21箇所
いわないちよう 岩内町: 14箇所
かもえないむら 神恵内村: 5箇所
くつちやんちよう 俱知安町: 8箇所 | しゃこたんちよう 積丹町: 1箇所
ふるびらちよう 古平町: 9箇所
にきちよう 仁木町: 17箇所
よいちちよう 余市町: 26箇所
あかいがわむら 赤井川村: 5箇所 |
|---|--|

- 避難退域時検査場所で緊急配布※2
- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| すつちちよう 寿都町: 候補地3箇所 | らんこしちよう 蘭越町: 候補地5箇所 |
| ちちよう ニセコ町: 候補地4箇所 | |

※1: バス集合場所等で緊急配布する10町村の住民は、避難退域時検査場所(候補地計29箇所)でも緊急配布を受けられる
 ※2: 避難退域時検査場所での配布については、候補地のうち発災時に北海道が指定する箇所において配布

国による安定ヨウ素剤の確保体制

- 国は、UPZ内において安定ヨウ素剤が不足した場合、及びUPZ外において安定ヨウ素剤を必要とする場合に備えた備蓄を実施しており、全国を5つのブロック(北海道、東北・関東、中部、中国・四国、九州)に分け、5箇所の安定ヨウ素剤集積所に、丸剤200万丸、乳幼児向けゼリー状安定ヨウ素剤15万包の備蓄を実施。
- 緊急配布場所への輸送は、北海道ブロックの安定ヨウ素剤集積所から24時間以内、隣接ブロックの安定ヨウ素剤集積所から3日以内、その他ブロックの安定ヨウ素剤集積所から7日以内に完了する体制。
- さらに、不足の場合には、民間工場での全力生産及び海外からの援助等により、必要数を確保。



オフサイトセンター
(北海道原子力防災センター)



安定ヨウ素剤集積所



UPZ内外の安定ヨウ素剤
緊急配布場所